



- 巻頭言『藤が丘病院の脳神経内科』
脳神経内科 医長 市川博雄
- 『町田市消防局より、感謝状を頂きました』
- 看護部『多重課題』研修について
- 『挨拶運動』を実施しました
- 『ボランティア募集』

巻頭言 『藤が丘病院の脳神経内科』



昨年4月より昭和大学藤が丘病院脳神経内科医長として赴任させて頂いてから1年半が経過しました。脳神経内科という診療科は脳、脊髄、末梢神経、筋の病気を扱う内科診療科です。受診の契機となる代表的症状は、頭痛、めまい、しびれ、物忘れ、歩行障害、筋力低下、振るえなどです。扱う疾患は脳卒中（脳梗塞、脳出血など）をはじめ、神経感染症（髄膜炎、脳炎など）、変性疾患（パーキンソン病、認知症など）、自己免疫性神経疾患（多発性硬化症、ギラン・バレー症候群など）、その他神経疾患は多岐にわたります。

現在、外来および入院診療は脳神経センターとして脳神経外科との連携のもとで行っており、外来は2階の外科外来ブース、入院病棟は7階西が中心となっております。本年4月には脳神経センター内に脳卒中ケアユニット（SCU）3床を開設させて頂き、脳卒中専門医をはじめとする専門スタッフによる治療のほか、3対1の濃厚な看護、早期からのリハビリテーションを提供することが可能となりました。脳梗塞の治療面では、血栓を溶かす薬による急性期治療（経静脈的血栓溶解療法）のほか、カテーテルを用いて閉塞した血管を開通させる血管内治療が専門医の判断で適応に応じて施行可能です。しかし、脳卒中診療は時間との戦いです（time is brain）。そのため、救急患者のスムーズな受け入れを実現すべく、脳卒中ホットラインも設置しております。脳卒中診療にはスピード感が必要となります。

一方で、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病の診療も地域医療においては重要と考えており、本年5月よりリハビリ病院を含めた入院診療体制も整えております。これらの疾患の診療にはスピード感より五感が必要です。五感とは目が“利く”、鼻が“利く”の五感です。なかでも、しっかりと“聞く”こと、“見る”ことが重要です。まずは、話を“訊く”、声を“聴く”ことです。神経系のどこが悪くて喋りにくいかなどは、話を“訊く”、そして喋り方や声を“聴く”ことをしなければ分かりません。そして注意深く“視る”、さらに触れて診察して“診る”ことです。私どもが扱う病気には、話を“訊く”、声を“聴く”、顔色や表情を“見て視る”、そして“診る”ことでしかわからないものがあります。パーキンソン病などがそうです。症状には必ず原因があります。“検査だけして異常が見えないから病気ではない”という見えるものしか診ない医療にならぬよう心掛けたいと思っております。

われわれにとって、万事に“効く”治療を提供し、病気を完治させることができればこの上ない喜びですが、神経疾患は原因によらず何らかの機能障害を残すことが少なくありません。これは最大の葛藤です。残念ながら、神経疾患は要介護の原因のトップでもあり、神経疾患を“看る”には多職種からなる大学職員、さらには地域における様々な方の協力が不可欠であります。チーム医療そして地域連携を通して、少しでも地域医療に貢献できればと考えております。

『町田市消防局より、感謝状を頂きました』

9月12日、町田消防署長が来院され、東京消防庁救急部長による感謝状をいただきました。救急の日(9月9日)にあたり、当院が救急業務の充実・発展に貢献をしたことが評価されたものです。

さて、救急医療は地場産業といわれるとおり、地域に密着して、そのニーズにお応えしなければいけません。当院の立地条件から、横浜市のみならず東京都町田市や川崎市の皆様に、適時・的確な医療を提供できるように今後も努めます。

現在、救急医療センター(救命救急センターとER)は、機能の向上を目的に改装しています。救急診療を継続しながら、年内にハードウェアを整備し、良質の医療を提供できるよう先進します。



9月12日、院長室において 町田消防署長より授与



看護部『多重課題』研修について

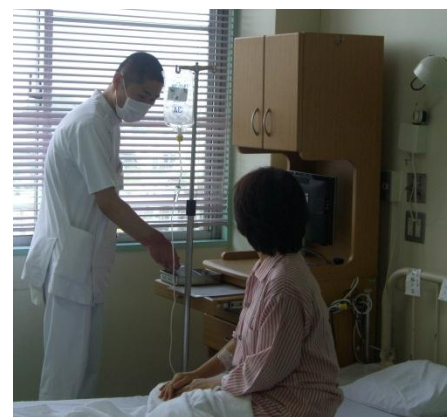
新人看護職員「多重課題」研修を終えて

看護部新人教育担当 前田うづみ

私たち看護師の業務では、患者さんの対応が重なり、その時々で瞬時に判断しなければならないことが多々あります。例えば、点滴の交換や排泄の援助、検査の準備を同時に行なう時などです。このように、同時に2つ以上の業務をしなければならない状況を私たちは「多重課題の状況」と捉えています。

毎年、どの新人看護師も難しいと感じるのが「多重課題の状況での優先度判断」です。このために看護部は、この能力を習得するための研修を行っています。普段起こりやすい多重課題の業務状況を作り出し、その対応について検討する模擬体験研修です。新人看護師は、患者役である師長の逼真の演技に緊張しながらも、みな真剣に取り組んでいました。そして、自分達の判断や行動を指導者や新人同士で振り返りながら、看護師として成長するための課題を自分の言葉で表現することが出来ました。

新人看護師は入職後6か月が経過し、患者さんに関わらせていただくことが増えていきます。先輩看護師の指導を受けながら業務を行っている新人看護師ですが、学習を重ね、患者さんから信頼される看護が実践できるよう努力してほしいと願っています。





『挨拶運動を実施しました』

看護部では、7月17日から7月27日まで挨拶週間を実施いたしました。朝の勤務開始時間前に出勤した職員へ挨拶をし、院内は爽やかな雰囲気になりました。

2週間という短い時間でしたが美化実務者は「おはようございます」「行ってらっしゃい」と守衛さんと共に笑顔と愛情を降り注ぎ、その結果として多くのスタッフに笑顔の挨拶をお返しをもらいました。私たち職員は職場において、お互いの仕事を信頼しお互いを思いやることでよい仕事ができると思っています。そしてお互いの信頼関係を築くためにも、挨拶は大変重要だと実感しております。挨拶は職員だけではなく、患者さんやその家族・周りも人々をも幸せにしてやる気を起こさせてくれる大切な言葉です。職場だけではなく、いろんな出会いの中でも挨拶を交わすことでたくさんの幸せを広げていきたいと考えております。ここで一言・・・「挨拶は 心と笑顔をつなげます」・・・これからも心のこもった挨拶をしてまいります。

挨拶週間はこの期間で終了いたしました。その後も出勤時に更衣室へ向かう通路では、「おはようございます」とさわやかな挨拶を耳にします。院内のよいきっかけづくりになりました。



『ボランティア募集』

昭和大学藤が丘病院・昭和大学藤が丘リハビリテーション病院ではボランティア活動を頂ける方を募集しております。

活動内容

●外来部門

外来部門で患者さんが困ることについてのお手伝い
(場所案内、問診票代筆、車椅子介助等、親の受診時の子どもの見守り)

●小児病棟部門

遊び相手、学習援助、食事介助(声かけを含め)、イベントの参加等

●ブックサービス部門

外来に常設してあるブックワゴンと病棟巡回用ブックワゴンの本の整理、補充、管理、病棟移動図書活動

活動時間

●活動曜日：月曜日～金曜日

●外来部門 9:00～11:30

●小児病棟部門 10:00～17:00

●ブックサービス部門 9:00～13:00

●ロビーコンサート等 随時調整

※活動時間は、上記時間帯の中で、ご都合のよいお時間に活動頂いております。



くわしくはボランティア係(代表:045-971-1151 よりボランティア係を呼び出し)へお問い合わせ下さい。

《診療統計》

	藤が丘		リハビリ	
	9月	10月	9月	10月
外来患者数	29,916人(1,300.7人)	33,133人(1,380.5人)	5,675人(236.5人)	5,404人(225.2人)
入院患者数	15,286人(118.8人)	14,835人(494.5人)	5,448人(175.7人)	5,435人(181.2人)

2012年9月～10月()内は1日平均

《編集後記》

暑かった夏も終わり、食欲の秋となりました。
今となっては、今季に行ったクールビズが懐かしいほどです。
寒さへ向け、食欲の秋には糖質が多くエネルギー源となる
秋の味覚・イモ類をしっかりと味わい寒さ対策をしたいと思います。
なお、この場をお借りまして、今季のクールビズや節電に関して
皆様にご協力頂きまして御礼申し上げます。

管理課 豊巻 美里

《編集委員》

三邊 武 幸
谷山 松 雄
田口 清
上ノ宮 彰
吉原 利 栄
高橋 良 治
佐藤 薫
豊巻 美 里

吉村 吾 志 夫
池田 裕 一
高橋 良 昌
西山 謙 一
伊藤 久 美
庄司 博
久保田 浩 司

(順不同)